

様式 (7)

報告番号	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: inline-block; text-align: center; vertical-align: middle;">甲 保</div> 第 52 号 乙 保
論文内容要旨	
氏 名	横谷 知也
題 目	Psychometric Testing of the Technological Competency as Caring in Nursing Instrument – Revised (English version including a practice dimension) 改定英語版 看護におけるケアリングとしての技術力尺度 (認識と実践を測定するための尺度の信頼性)
<p>背景：Technological Competency as Caring in Nursing (TCCN: 現代看護におけるケアリングとしての技術力)は、看護実践の指針となる現代の中範囲理論である。TCCN Instrument (TCCNI) は、TCCN理論の認識の側面を測定するものであり、日本語に翻訳され、Technological Competency as Caring in Nursing Instrument – Revised (TCCNI-R) として改訂されている。従って、TCCNI-Rを英語版に翻訳し、実践の側面を加えて測定することは重要である。</p> <p>目的：本研究の目的は、TCCNI-Revised English version with Practice dimension (TCCNI-RePract) の認識と実践を測定するための尺度の信頼性を明らかにすることである。</p> <p>方法：TCCNI-RePract認識尺度25問と実践尺度25問を用いて、Webベースの横断研究を実施した。病院の看護師と大学の看護教育者からなる202名の有効回答を用いて、探索的因子分析を行い、認識と実践の平均因子点 (MFP) をペアードt検定で比較した。</p> <p>結果：TCCNI-RePract認識尺度の回答に対して、因子分析の適合性は、Kaiser-Meyer-Olkinの適切性指標 (0.93)、Bartlett の球面性検定 (3256.93、<math>p &lt; 0.001</math>)、反イメージ相関係数は0.87から0.96、因子共通性の平均値は0.66であった。探索的因子分析で、最尤法によるHarris-Kaiserの独立クラスター回転で行った4回の回転では、因子負荷量が0.40未満の4項目を除外した。これらの結果、(1) Knowing the Person (8項目)、(2) Technological Competency as Caring (6項目)、(3) Technology and Caring (4項目)、(4) Expression of Nursing as Caring (3項目) の4因子、21項目の下位尺度からなる最終的な尺度が決定した。尺度全体のCronbachの<math>\alpha</math>係数は0.94だった。TCCNI-RePractの2つの側面では、認識の側面が実践の側面より有意に高い結果を示した。2つの側面の各因子をMFPで比較すると、認識の側面のスコアは、第1因子と第3因子で実践の側面より有意に高かった。</p> <p>結論：TCCNI-RePractは、看護師のTCCNに対する認識と実践を信頼性をもって測定することが可能な尺度である。この尺度により、TCCN理論の認識と実践状況の測定が可能であることが確認された。この評価結果は、院内現任教育の計画に利用できると考えられる。</p>	